

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0471500298
法人名	株式会社 東北医療福祉システムズ
事業所名	グループホーム やすらぎ苑古川
所在地 (電話番号)	宮城県大崎市古川小野字一の坪43-101 (電話) 0229-27-2661
評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 11 月 14 日

【情報提供票より】(平成 20年10月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年10月15日 「すずらん」H16. 7. 1		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 15 人, 非常勤	人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造	造り
	1, 2 階建ての	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	23,000 円	
敷金	有(円)	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	○有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,230 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2			
年齢	平均 81.2 歳	最低	55 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	たんぽぽクリニック、有馬歯科、塩沢整形外科、星陵病院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは2ユニットで、大崎市古川の北部、長岡地区にあり、国道4号線沿いの小道を入った小高い丘の上にあります。双方から国道の車の流れが見える。平成13年10月に開設の「りんどう」は、一部二階建てでデイサービスをやっていた建物を、引き継いでスタートしたという。平成16年7月に開設した「すずらん」は、「りんどう」の隣に建てられ、一階建てで双方を行き来する渡り廊下などはない。管理者は主に「すずらん」に常駐しており、連絡、調整の際は玄関間を往復している。ホームの特徴は、医療との連携が週1回の医師や看護師の訪問で進んでいることです。また、入居者に生活保護受給者がおり、行政との連携が深められていることです。さらに、若い職員が中心で、ホームの雰囲気も明るく和やかで、日常のケアの中で利用者との信頼関係が醸成されているとの印象を持った。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回、今後の工夫、改善点として挙げられた、運営に関する家族など意見の反映や、入浴を楽しむことの支援は、夜間入浴の実施など、現在努力中の取り組みもあるが、第三者委員の任命など改善されている。今後も残された課題に対する努力に期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が自己評価票をもとに話し合いを行って、要改善項目は具体案の検討を行い、サービスの向上に努めている。最終的には管理者、グループリーダーが合議してまとめ、ホームとして一体となった対応を心がけている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>平成20年度は、3回開催しており、議事録をみると双方向的な話し合いが行われている。また、メンバーも行政区長の出席など多岐に渡っている。国道からの道路の改修や街灯の設置など、ホームとしての要望もまとめられている。ホームの周囲の環境に問題はないが、ホームに行く際の道路や、冬期間の安全対策上に難点があると思うので、実現を期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時の家族との話し合いや、「やすらぎ苑通信」で、報告や意見の吸い上げが行われている。しかし、入居者の日常の役割の変更や、職員交代の周知が不十分との声がある。「やすらぎ通信」に新人職員の紹介があったが、入居者との馴染みの関係が、閉ざされることのないよう、今後の対策を期待したい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域との付き合いは強まっている。地域住民との交流の下でのホーム運営の基本は実践されている。小野(この)二区の町内会において多くのイベントに参加して交流を深めている。同時に町内清掃にも参加して、地域貢献に寄与している。近隣の民家から野菜などの差し入れがあり、交流が多い。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念が作成され、ホーム内にも掲出されている。地域密着型サービスの位置付けに変更以降は、修正を若干行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送りの際、全員が再確認できるよう唱和して、日々の理念の共有を図り、日頃の支援に繋げている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との付き合いは積極的に行っている。小野(この)二区の町内会に加入して、防災訓練、町内清掃、会食会などに参加し交流している。また、長岡地区の運動会や、長岡小、古川北中の学校行事にも参加している。ボランティアも近所の方の踊りや、ご家族の三味線、子どもの車椅子体験など受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に自己評価票を配布して取り組み、要改善点は、具体案の検討を行い、サービスの向上に努めている。基本はたえず利用者の立場にたって、ホームのサービス改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、平成20年度は3回開催し、着実に実践されている。ホームの内外の現状をつぶさに見てもらい、意見を頂いている。ホームからの要望も行政區長に街灯設置などお願いして、双方向的な話し合いが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に大崎市の「あんしん介護相談員」の巡回を受け入れており、「りんどう」では、相談員全員の顔写真が掲出されている。生活保護受給者もあり、市の介護保険担当者以外の連携も行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりや健康状態、そして、金銭出納など、家族による定期的な確認が行われている。しかし職員の異動などの家族への周知は充分ではない。	○	「やすらぎ苑通信」の綴りを見ると、職員の異動については新人職員の紹介はあるが、離職者のお知らせは見当たらない。入居者との馴染みの関係を一時的にせよ閉ざす以上、また、異動の周知が不十分なので、家族にいち早く情報が届くよう今後改善を図るよう期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族がホームを訪ねた時や、行事参加の際に、会話をしながら意見を引き出すよう心がけている。入居者の生活面の疑問や、苑の設備面の要求には、できることから速やかに対応している。意見、不満、苦情の表せる場は、機会あるごとに家族に話している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去、管理者も数回変わり離職者もあったが、現在は定着しておりホーム内に職員の顔写真が掲出されている。ユニット間で入居者、職員の移動もして、両ユニットでなじみの顔になっている人もいる。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外部の各種研修に参加して、研修レポートを作成して資料と共に全員に回覧して、情報の共有をしている。福祉関係の国家資格の取得後の手当制度もある。研修のまとまった計画は無いが、随時希望を募り対処している。最近のホーム内研修は、「おむつの当て方」を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO県グループホーム協議会北ブロックに加入して、研修会や相互評価(訪問)などに参加し、交流の機会を作っている。最近では、金成町の「まりやの家」との相互評価を行っており、ホームのサービス向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	すぐにサービスを利用する方が多いが、入居前に可能な方はホームの日常の流れを見学して、一緒にレクリエーションをしたりお茶や食事を取って、雰囲気に馴染むよう体験できる場を提供しているが、職員が充分と思っていない。	○	「りんどう」の場合、生活を体験する場の提供の実績がこれまでなかった。今後、入居前のホームの生活体験や慣れる関係の強化に取り組むとのことなので、期待したい。
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の生活の全場面で、できることは一緒にしており、その中で教えられることは沢山ある。お掃除や料理、後片付け、裁縫、編物、畑仕事など、協働しながら生活できるよう日常的に支えあう関係をつくっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話を中心に、入居者個々人の思いや希望を引き出して、それに合わせて支援している。日々入居者一人ひとりの介護記録や、生活リズム・パターンシートを作成して、支援のツールにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聞いて、職員全員で話し合いケアプランの作成に活かしている。計画は家族に説明して了解をもらっている。東京センター方式に切り替え中だが、全シートの作成は考えていない。給付管理は会社の事務部門で行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月毎に見直しを行い、家族の了解ももらっている。状況の変化がある時は、現状に即した計画に修正している。家族との面会の状況によって修正が遅れることもある。介護計画の見直しに家族の意見を取り入れるよう、今後も積極的に話し合っていきたい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の生活状況を踏まえて、通院や特別な外出、外泊など柔軟に対応している。近隣の高齢者のホームでのショートステイなどの実績はない。入院、外泊の上限期間は設けているが、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の医師に受診できるよう、家族と連携して対応している(現在6名)。また、毎週水曜日には、仙台市泉区から医師、看護師が訪問して、診療に当たっている。24時間適切な医療が受けられる体制にある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	指針が作成されており、意思確認書や同意書が取り交わされている。過去にターミナルケアをホームとして経験しているので、今後も研修を重ねて、万全の体制を作るとのことなので取り組みに期待したい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けは、入居者に恥ずかしい思いをさせないように対応している。しかし難聴などの入居者には、大きな声での支援になることがある。	○	「すずらん」の場合、若い職員が中心とのこともあり、声のトーンに配慮したいとのことなので、今後の改善に期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の入居者の生活に合わせた支援を基本にしている。本人の意思を最優先に支援するとの方針から、入浴など希望の時間に合わせるなど懸案の事項について、今後改善を期待したい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時には食事の好き嫌いについて把握している。全介助者3名を含めて、入居者、職員が同じテーブルで一緒に食事をして、楽しい食事になるよう努力している。盛り付けや後片付けも一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員側の都合による時間帯に入浴する場合があります、前回から指摘されている懸案事項である。	○	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、今後入浴できるよう努力していただきたい。「すずらん」の場合、改善の意欲が旺盛で成果が上がる方向なので、期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野が日常生活で発揮できるよう配慮している。洗濯物の整理、畑仕事、雑巾縫い、民謡、踊り、足踏み体操など、レクリエーション分野を含め支援している。入居者が生きがいとしている役割を大事にしていきたい。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日光浴や散歩、ドライブ、買物、馴染みの美容院など、戸外での楽しみを提供している。外出困難な入居者はウッドデッキでの日光浴、ホームの周囲の散歩を中心に行っている。ホームには車が2台あるが車椅子用はない。外出はユニット単位で行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間また未使用時の浴室は施錠しているが、日中はしていない。ホームのある場所は小高い丘で坂があり、入口に車椅子の対策はしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練が実施され、近隣の住民の参加もある。消防署の指導も受けており、点検も行われている。備蓄もある程度確保されている。災害マニュアルはない。	○	定期的な災害対策は実施されているが、担当者や消防署に任せきりの姿勢も見える。マニュアルを常備して、ホームとしての体系的な取り組みができるよう努力していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の状況をチェック表に記入し、入居者の把握が行われている。体重の把握も、毎月測定が行われている。	○	「すずらん」の場合、カロリー計算や栄養バランスを考えた食事の提供を更に心がけたいとのことなので、今後の改善に期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた共用空間の装飾が施されて、入居者と一緒になって居心地の良さが追求されている。定期的にクリスマスツリーが飾られ、華やいだ雰囲気がある。両ユニットで間取りの違いはあるが、空間の違いは感じられない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活スタイルに合わせて、入居者が使い慣れた物を、家族の協力で居室に運んでいる。全体的に居室は清潔で乱雑な所はない。	○	「すずらん」の場合、更なる家族の協力を得ていきたいとのことなので、今後の取り組みに期待したい。